

- 実施主体 国立阿蘇青少年交流の家
- 実施場所 国立阿蘇青少年交流の家・小堀牧野
- 実施期間 平成27年8月6日（木）



◇背景・ねらい

阿蘇郡市の教員の方々や地域の教育に携わるの方々を対象とし、阿蘇の草原環境の現状について学び、草原で実際に体験していただくことを通して、草原環境保全の意識を高める。また、草原について阿蘇の子どもたちに伝えたり、その学習を支援したりするための契機とする。

◆実施概要

草原学習指導者の育成を目標として、以下の内容で実施した。

- ・参加者：10名（教職員：5名 一般：4名 交流の家職員：1名）
- ・実施場所：国立阿蘇青少年交流の家・小堀牧野
- ・参加費：保険代100円・弁当520円（希望者のみ）
- ・内容：フィールドワーク・講義・紙すき体験など
 1. 講義 「草原と人との関わり」（高橋佳孝氏）
 2. フィールドワーク①「あか牛とのふれあい」
※材料：米ぬかと味噌、塩を使用。
 3. フィールドワーク②「草原にねむる宝探し」
 4. 体験活動「紙すき体験」
 5. 草原キッズ・プロジェクト紹介
 6. 実践発表「草原環境学習 基本プログラム発表」（廣津先生）



あか牛とのふれあい



紙すき体験

◆実施体制

- ・企画作成：4月に草原環境学習小委員会WGで話し合いを行った。
- ・運営：交流の家主体にワーキンググループのメンバーが協力。
草原環境学習小委員会が共催。
- ・講師：草原環境学習小委員会メンバー・町古閑牧野組合・小堀牧野組合など地元牧野の方々

◆成 果

- ・紙すき体験をしたり、あか牛への餌やり体験をしたりしたことにより、参加者からは「(紙すきの) 出来上がりが楽しみ。子どもたちにも体験させたいと思いました。」などの声が聞かれた。
- ・参加した先生の中に草原学習の取組を始められた方がいた。一人の先生が始めることでさらに多くの子どもたちが草原について学ぶことができるので、今後も続けていく必要があると考えている。
- ・募金者にわかるような広報活動が不十分であるため、この後の「秋編」「指導者編」で工夫する。



基本プログラム発表

◆実施者の感想

「阿蘇に住む子どもたちにどのように草原の良さを伝えていくのか、郷土愛、自然体験の視点から考えさせられた。取り組みのヒントがたくさん詰まっている研修となった。」という感想をもたれた先生が、2学期に実践したいという意欲を話された。草原学習に取り組む先生を増やしたいという本事業のねらいが達成できた。

次年度に向けて、本年度内に実施時期も含めて、教育事務所や委員会に協力を依頼しておかないといけない。また、研修終了後の参加者の活かし方など、草原環境学習小委員会と連携し、講習会のあり方（育成・実践）を再度検討したい。